

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果 課題の改善に向けた取組の重点

1 調査結果を踏まえた今後の取組について	.....	1
2 「課題の改善に向けた取組の重点」の活用	.....	2
3 問題別調査結果【小学校 国語】	.....	3
4 問題別調査結果【小学校 算数】	.....	5
5 問題別調査結果【中学校 国語】	.....	7
6 問題別調査結果【中学校 数学】	.....	9
7 問題別調査結果【中学校 英語(聞くこと、読むこと、書くこと)】	.....	11
8 分析資料の活用方法(S-P表・学力層分析)	.....	13

令和5年8月7日

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

## 調査結果を踏まえた今後の取組について

各学校において、全国学力・学習状況調査の結果を分析することで、子ども一人ひとりの学びの状況をしっかりと把握し、各学校の課題に応じた取組を進めていただくことが重要です。

子どもたちの「分かった」「できた」という喜びや達成感につながるよう、共に取り組んでいきましょう。

### ◆調査結果を踏まえた2学期からの取組

#### ○ 教科における「重点的に指導する内容」の共通実践

##### ・ どの教科においても自分の考えをまとめ、記述することの指導の充実

明らかになった「重点的に指導すべき点」を踏まえて、本冊子でまとめている教科ごとの取組や調査の関連資料等を参考に、共通実践を進めます。

#### ○ 各学校における調査結果等の分析

##### ・ 分析資料を活用した課題の焦点化と取組の明確化

「解答状況整理表（S-P表）」や「学力層（四分位）分析グラフ」等の分析資料を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着等を含めて各学校の課題を焦点化します。その上で「重点的に指導すべき点」を明らかにし、教職員全体で共通理解を図ります。

##### ・ 「学びのアンケート」等を活用した検証・改善

「学びのアンケート」では、教科ごとの課題の改善に向けた取組に関連した質問を出題しています。この他に「学校評価」の結果等も踏まえ、自校の取組を評価するとともに、子ども一人ひとりの学習状況を把握し、課題解決に向けた取組を継続的に行います。

※「学びの基礎チャレンジ」も御活用いただけるよう、県総合教育センターHPに掲載します。

### ◆今後も継続して行う取組

#### ○ 基礎・基本の定着のための取組の見直し

子どもたちの基礎・基本の定着を図るためのこれまでの取組について見直し、共通実践していきましょう。

#### ○ 「読み解く力」の視点を踏まえた授業の充実

子ども一人ひとりが学びの成果を実感し、学んだことや意欲、問題意識等を次の授業につなげられるよう、授業の時間内に「まとめ」や「適用問題」、「振り返り」の時間をしっかりと確保し、それらの質的な改善に取り組みましょう。また、自分の考えをまとめ、記述することの指導を大切にしていきましょう。

#### ○ 家庭学習や読書活動の充実

子どもたちへの家庭学習の課題の出し方等について、学校全体で共通理解して取り組んでいきましょう。そして、子どもたちに、家庭学習の取り組み方について具体的に伝えていきましょう。また、家庭等においても、読書に取り組めるように支援していきましょう。

# 「課題の改善に向けた取組の重点」の活用

① 分析資料等を活用し、課題を焦点化する。

・「調査結果概況」「問題別調査結果」だけでなく、S-P 表、学力層(四分位)分析グラフ等の分析資料を活用し、学校として大まかな課題ではなく、「重点的に指導すべきと考えられる設問」を絞りこみ、課題をできるだけ焦点化します。

② 「重点的に指導すべき点」を明らかにする。

・焦点化した課題について、「この設問を解くためには、どのような力が必要か」「その力を付けるためには、どのような指導が適切か」等を考え、「重点的に指導すべき点」を明らかにします。  
・平均正答率だけでなく、解答類型等も参考にしながら、誤答の要因を分析します。

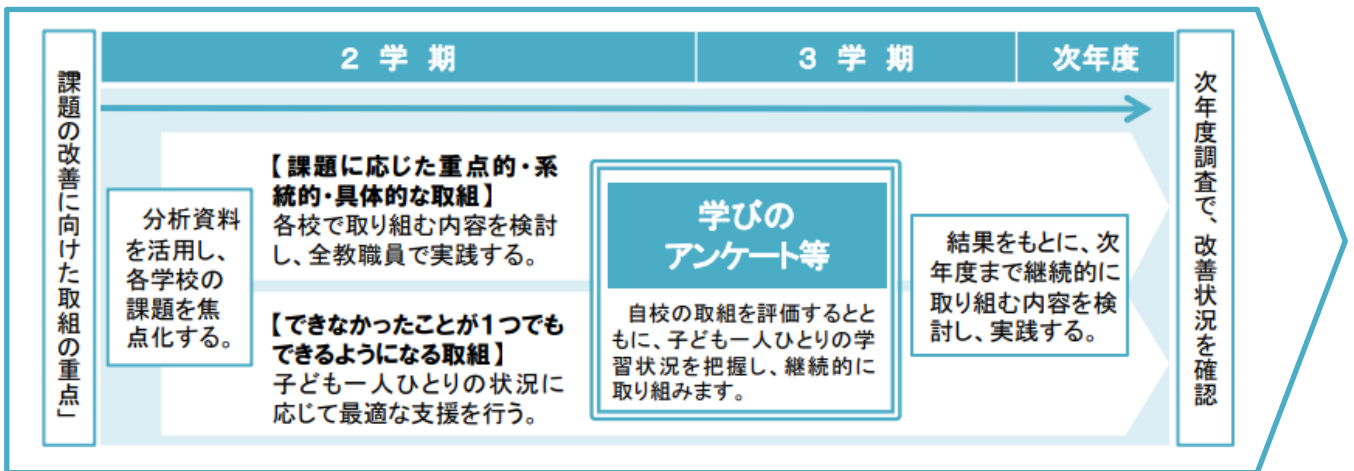
③ 2学期に全教職員で取り組む具体的な内容を検討し、実践する。

・明らかになった「重点的に指導すべき点」を基に、全教職員が各自の授業実践で取り組むことを出し合いながら、協議をします。学校や学年で統一して取り組む内容は、できるだけ焦点化・具体化を図り、全職員が日常的に実践できるようにします。

④ 取組を定期的に検証・改善する。

・短時間でも、取組について各自が振り返る時間を設定し、成果や課題、効果を実感した取組、実践上の悩み等を共有し、明日からの実践につなげます。

## ■ 「課題の改善に向けた取組の重点」に係るスケジュール



## ■ 本資料の他に参考にしていただきたい資料

### 関連資料 (県教育委員会作成)

#### 調査結果の概要

本県の調査結果の概要(成果・課題)をまとめています。



#### 調査問題の分析

「読み解く力」に関連する問題等について分析しています。



#### ・ガッテン!!プリント ・「読み解く力」対応 学習プリント

課題の改善につながる補充学習プリントです。

※ダウンロードには、各学校園に配布されているIDとパスワードが必要です。



### 関連資料 (国立教育政策研究所作成)

国立教育政策研究所作成の以下の資料も参考にしてください。

- ◆ 調査問題・正答例・解説資料
- ◆ 報告書【速報版】・調査結果資料
- ◆ 授業アイデア例一覧(報告書に掲載)



・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

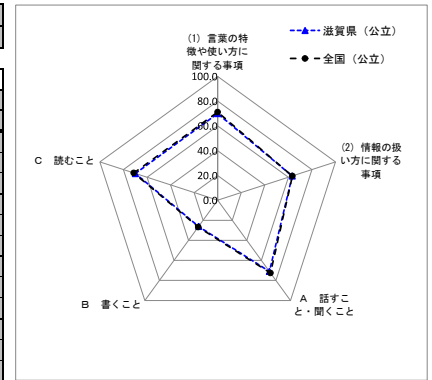
集計結果

対象学校数	滋賀県(公立)	全国(公立)	対象児童数	滋賀県(公立)	全国(公立)
	222	18,618		12,596	964,177

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			滋賀県(公立)	全国(公立)	
全体					
全体		14	66	67.2	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	5	70.0	71.2
		(2) 情報の扱い方に關する事項	2	63.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	71.0	72.6
		B 書くこと	1	26.1	26.7
		C 読むこと	3	69.9	71.2
評価の観点	知識・技能	7	68.1	68.9	
	思考・判断・表現	7	64.1	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	73.0	73.6	
	短答式	2	60.4	62.7	
	記述式	3	49.3	51.1	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)				
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					選択式	短答式	記述式	滋賀県(公立)	全国(公立)	滋賀県(公立)	全国(公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと									
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	5・6 ア						○			64.4	64.7	1.9	1.8		
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 エ		○			26.1	26.7	8.2	7.1		
1三 (1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ						○			47.8	52.8	4.2	4.8		
1三 (1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)		5・6 エ						○			72.9	72.6	5.6	6.7		
1三 (2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(くらべて)	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 ウ						○			92.6	93.1	1.0	1.0		
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5・6 カ						○			79.1	79.8	2.3	2.0		
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる						3・4 ウ		○		90.0	90.0	1.4	1.2		
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5・6 ウ		○		65.1	67.4	1.5	1.4		
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6 イ						○			62.3	62.0	1.7	1.6		
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						5・6 オ		○		54.5	56.2	9.4	8.5		
3一 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる						3・4 エ		○		73.2	73.6	4.0	3.7		
3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する		3・4 エ						○			72.6	74.0	4.4	4.1		
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	5・6 エ						○			67.2	70.2	16.0	14.3		
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5・6 キ						○			57.5	57.6	12.0	9.5		

## 【小学校 国語】調査問題の結果から

### ■ 顕著な課題がみられた設問

- ・ ①「複数の資料を読んで分かったことをもとに、米作りの問題点と解決方法を書く」設問の正答率は26.1%（全国比-0.6）であり、無解答率は8.2%（全国比+1.1）である。「自分の考えが伝わるようにグラフなどを用いて、書き表し方を工夫した文章を書くこと」に課題が見られる。→取組①
- ・ ③「話し手がどんな思いでボランティアを続けているかについて、分かったことをまとめて書く」設問の正答率は67.2%（全国比-3.0）であり、無解答率は16.0%（全国比+1.7）である。「インタビューの様子から話し手の思いを捉え、分かったことをもとに自分の考えをまとめること」に課題が見られる。→取組②

### 課題の改善に向けた取組①

1二

自分の考えを分かりやすく伝えるためには、図表やグラフなどを用いるなど、書き表し方の工夫を児童が理解し、使うことができるような学習活動を設ける。

#### ○ 学習指導に当たって（取組の例）

- ・ モデルとなる複数の文章等を比較して、書き表し方の工夫について話し合う学習活動を設定し、図表やグラフなどを用いると、自分にとって考えを深めやすく、相手にとっても理解しやすいものとなることを実感できるようにする。また、話し合い、整理したことを、文章を見直す際の観点として、交流の場面や自分自身の振り返りに生かす。
- ・ 文章を記述する場面では、児童の学習状況に応じて、友達と交流しながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできる機会を設ける。

一人ひとりが自分の目的や意図に応じて書き表す方法を学ぶことができるポイント



① 書く前に自分の目的や意図を明確にもつように指導する。

➡ その児童にとって、どのような文章の種類と特徴がぴったりののか、モデルとなる文章を提示すると、書き表し方の工夫につながる。

② 各情報の内容をどのように捉え、その情報をどのように関連付けたり整理したりするのかについて指導する。

➡ 必要な情報に印をつけたり、情報と情報を矢印でつないだり、表にまとめたりすると、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようになる。

### 課題の改善に向けた取組②

3二

目的や意図に応じ、話の内容を捉えて、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめ、表現する学習活動を充実させる。

#### ○ 学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 調査問題を教材として活用し、児童が考えのまとめ方に着目して友達と話し合うことで、まとめ方のよい点や工夫に気付くことができるようにする。



二人の共通する思いに着目して分かったところをまとめているところがいいよね。



最初にもった自分の考えと比べて、どのように変化したかを伝えているのもいいね。



二人の思いを区別してまとめるのもいいね。

【児童が考えのまとめ方のよい点を整理した例】➡

自分の考えをまとめるとき  
○相手の考えと自分の考えを比べて似ているところやちがうところを整理する。  
○「確かに」と思ったことや「なるほど」と思った事例を取り上げる。

- ・ まとめた内容を確かにするため、話し手の内容と再度照らし合わせ、確認する取組を入れ、表現活動につなげる。



・以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

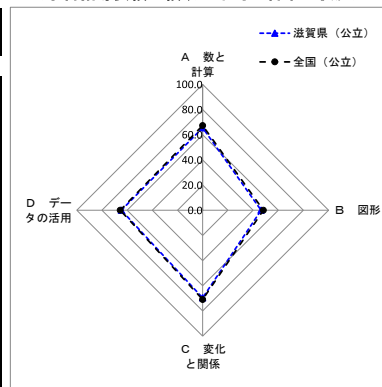
対象学校数	滋賀県(公立)	全国(公立)	対象児童数	滋賀県(公立)	全国(公立)
	222	18,615		12,604	964,350

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			滋賀県(公立)	全国(公立)
全体				
学習指導要領の領域				
	A 数と計算	6	65.5	67.3
	B 図形	4	46.4	48.2
	C 測定	0		
	C 変化と関係	4	69.6	70.9
	D データの活用	3	64.6	65.5
評価の観点				
	知識・技能	9	65.5	67.2
	思考・判断・表現	7	55.0	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式				
	選択式	5	55.8	57.7
	短答式	7	73.2	74.7
	記述式	4	45.8	47.3

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	滋賀県(公立)	全国(公立)	滋賀県(公立)	全国(公立)	
1(1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	併って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる				4(1) 7(7)	○					○			92.9	93.5	0.9	0.8
1(2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	併って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5(1) 4(7)	○					○			87.4	88.5	1.0	1.0
1(3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	併って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5(1) 4(7) 5(2) 4(7)	○					○			52.6	55.5	3.3	3.4
1(4)	全部の椅子の数を求めるために、50×40を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3(3) 7(7)				○					○			79.1	80.8	1.3	1.2
2(1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) 7(4)			○					○			55.6	59.8	0.7	0.7
2(2)	テープを折ったり切ったりしてきた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		2(1) 7(4) 4(1) 7(7)			○					○			86.1	87.2	3.2	2.9
2(3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		3(1) 7(7) 4(1) 7(4)			○					○			22.2	24.9	3.8	3.7
2(4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		5(3) 4(7)			○					○			21.9	20.8	4.0	4.0
3(1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる		4(6) 4(7)			○					○			68.6	70.3	1.4	1.4
3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3(5) 7(4) 7(4) 4(4) 7(4) 4(1) 7(7)				○					○			54.6	56.7	3.8	4.0
3(3)	(151+49)×3と151×3+49×3を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4(6) 7(4) 4(7) 7(7)				○					○			69.0	72.4	2.4	2.5
3(4)	66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる	3(4) 7(4) 4(3) 7(7)				○					○			45.8	47.6	4.2	3.9
4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる		5(3) 7(4)			○					○			45.4	46.0	2.4	2.4
4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	4(2) 7(4)			3(1) 7(7)	○					○			75.9	75.7	4.6	4.3
4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる		5(1) 7(4) 4(1) 7(7)			○					○			54.2	56.2	15.3	13.8
4(4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる		4(1) 7(7)			○					○			63.7	64.6	5.4	4.9

## 【小学校 算数】調査問題の結果から

### ■顕著な課題がみられた設問

- ・ [2] (4) 「テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く」問題の正答率は21.9%（全国比+1.1）である。「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」に課題がみられる。→取組①
- ・ [3] (2) 「3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する」問題の正答率は54.6%（全国比-2.1）である。「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断すること」に課題がみられる。→取組②

### 課題の改善に向けた取組①

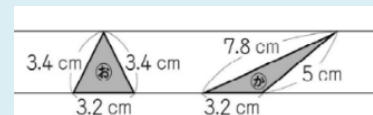
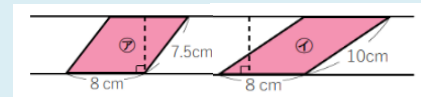
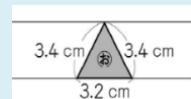
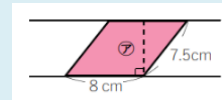
#### 図形

[2] (4)

「底辺と高さの關係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断することができるような学習活動を充実させる。」

#### ○学習指導に当たって（取組の例）

1. テープの上下の直線を平行な2直線とみなしてつくった平行四辺形や三角形の面積を求める際、直線上にある辺を底辺としたとき、どこが高さの部分にあたるのかを考える。「高さ」は底辺に対して垂直であることから、7.5cmや3.4cmの辺が高さでないことを説明する場面を設定する。
2. 平行な2直線にはさまれた底辺が等しい、二つの平行四辺形や、二つの三角形において、高さにあたる長さが分からない図形の面積の大小を判断することができるかを考える。公式を基に、その理由を底辺と高さの長さがそれぞれ等しいから面積が等しいということを表現（記述）し、説明できることが大切である。



### 課題の改善に向けた取組②

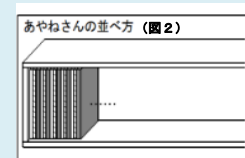
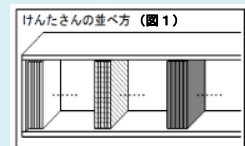
#### 数と計算

[3] (2)

「数量の關係を捉え、問題の解決に式を用いること」ができるような学習活動を充実させる。

#### ○学習指導に当たって（取組の例）

1. 3種類のファイル23人分を並べるとすると、どのような並べ方があるかを考える。
2. 二通りの並べ方を示す。けんたさんの並べ方（図1）を解釈し、3種類のファイルごとに23人分の長さを求める式を考える。次に、あやねさんの並べ方（図2）を解釈し、3種類のファイルの長さを合計した一人分のファイルの長さから、23人分の長さを求める式を考える。それぞれどのような式に表現（記述）したのかを数量の關係を捉えて説明できるようにすることが大切である。
3. 発展的な活動として、立式した二つの式を見比べて、 $\times 23$ が三つあることから、（ ）を用いた式に表すことができるといった分配法則を見いだすことが考えられる。



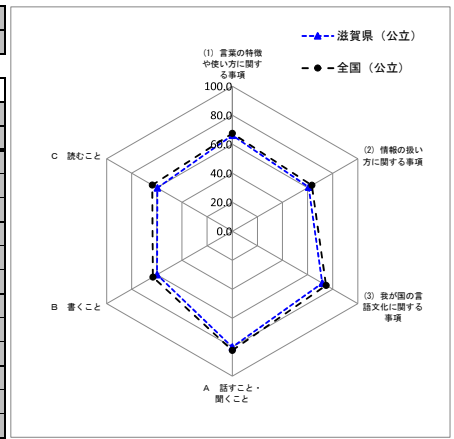
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県 (公立)	全国 (公立)	対象生徒数	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
	102	9,336		11,866	892,738

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			滋賀県 (公立)	全国 (公立)	
全体			15	67	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	66.2	67.5
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	60.9	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	71.7	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	79.9	82.2
		B 書くこと	2	59.9	63.2
		C 読むこと	4	59.7	63.7
評価の観点	知識・技能	7	67.0	69.4	
	思考・判断・表現	9	66.5	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	7	71.5	73.1	
	短答式	4	62.7	65.6	
	記述式	4	63.2	68.0	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点	問題形式	正答率 (%)		無解答率 (%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					滋賀県 (公立)	全国 (公立)	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと						
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる				1 ア					86.6	87.5	0.1	0.1
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1 ア							64.9	65.1	0.2	0.2
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる				1 エ					75.0	76.6	0.3	0.2
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1 エ					78.2	82.5	14.7	10.8
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1 ウ								89.9	91.1	0.3	0.2
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる					2 エ				59.6	63.0	0.6	0.4
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる					1 ア				71.6	74.2	0.5	0.3
2四	自分がこれからどのように本を読みたいかについて、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を参考にしながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる			2 エ			2 オ			63.9	67.5	6.0	3.9
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1 エ				52.9	54.3	1.0	0.6
3二	漢字を書く (おし量って)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2 ウ								42.4	43.9	11.8	10.7
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2 ア							56.9	61.8	3.1	2.1
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる					1 ウ				67.0	72.1	14.9	10.2
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる				1 ア					80.2	82.5	4.9	3.6
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す (いと)	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる			2 イ						71.1	74.1	6.5	4.8
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる						1 エ			43.7	50.0	27.2	20.7



## 【中学校 国語】調査問題の結果から

### ■顕著な課題がみられた設問

- ・ ③四の『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く」設問の正答率は67.0%（全国比-5.1）であり、無解答率は14.9%（全国比+4.7）である。「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと」に課題がみられる。→取組①
- ・ ④三の「現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」設問の正答率は43.7%（全国比-6.3）であり、無解答率は27.2%（全国比+6.5）である。「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」に課題がみられる。→取組②

### 課題の改善に向けた取組①

③四

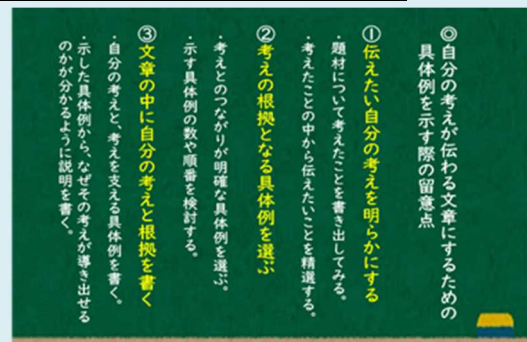
自分の考えが伝わる文章になるように、根拠として取り上げる事例の検討や効果的な記述の仕方の指導を工夫する。

#### ○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ レポートなど、調べたことや事実を基に考えたことを書く単元の前半に、根拠を明確にして書かれた文章\*を読み、その工夫と効果に気付く学習活動を取り入れる。

※ 調査問題のレポート例や教科書の既習の文章、指導者作成のモデル作品等

- ・ 考えを支える根拠として具体例を示す際に、どのような点に気を付けるべきか、実際に文章を書いたり、友だちと互いに読み合ったりして気付いたことを整理する。整理したことを相互評価や各自の振り返りの観点として生かす。



交流をして気付いたことをまとめた板書の例

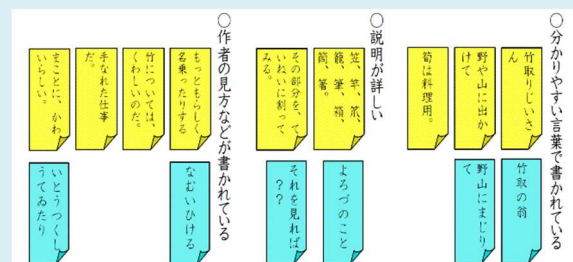
### 課題の改善に向けた取組②

④三

「読むこと」を通して古典作品の楽しみ方が理解できるように、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考え、表現する学習活動を設定する。

#### ○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 古典作品の現代語訳や古典について解説した文章などを原文と読み比べ、面白さや工夫されている点について、叙述を具体的に取り上げ、それを根拠としてペアやグループで説明し合う学習活動を行う。



叙述を記した付箋を観点ごとに整理した例

- ・ 学校図書館などを利用して、生徒自身が古典作品をさらに楽しむための本\*<sup>※1</sup>などを手に取る機会を設け、紹介し合う学習活動<sup>※2</sup>を行う。

※1 古典の易しい現代語訳や古典について解説した文章、絵本、漫画、映像メディア

※2 本の紹介文を書く、読書ポスターを作る、ビブリオバトルなど

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

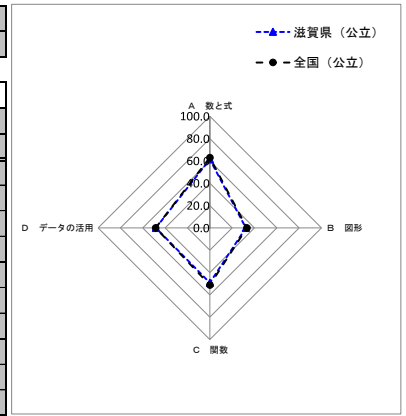
集計結果

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

対象学校数	滋賀県(公立)	全国(公立)	対象生徒数	滋賀県(公立)	全国(公立)
	102	9,337		11,896	893,114

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			滋賀県(公立)	全国(公立)	
全体			15	50	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	3	61.4	63.0
	B 図形	3	3	32.3	33.2
	C 関数	4	4	49.2	51.2
	D データの活用	3	3	48.3	48.5
評価の観点	知識・技能	10	10	55.1	55.7
	思考・判断・表現	5	5	38.9	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0	0		
問題形式	選択式	4	4	45.1	45.3
	短答式	6	6	61.8	62.6
	記述式	5	5	38.9	41.6



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点	問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	滋賀県(公立)	全国(公立)
1	1, 5, 0, 3, 4, 7, 9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	1(1) ア(7)				○		○			43.9	46.1	0.2	0.1
2	12(x/4+y/6)を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	2(1) ア(7)				○		○			79.3	80.5	5.4	4.0
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる			1(2) ア(7)		○		○			31.8	30.4	0.8	0.8
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる			1(1) ア(4)		○		○			44.0	42.8	0.6	0.5
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				1(1) ア(7)	○		○			51.4	46.1	11.1	11.0
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかけられる数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	1(1) ア(7)				○		○			87.8	88.9	3.5	2.4
6(2)	はじめの数にかけられる数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成させる	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) イ(4)				○		○			56.8	58.8	15.1	10.6
6(3)	はじめの数にかけられる数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	2(1) イ(4)				○		○			39.3	40.9	29.9	24.7
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				2(1) ア(7)	○		○			63.7	65.7	7.0	5.6
7(2)	「2006年～2020年の休業日は、1991年～2005年の休業日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(1) イ(7)	○		○			29.8	33.6	27.3	22.8
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる				2(1) ア(7) イ(7)	○		○			54.1	57.5	10.7	8.6
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) イ(4)	○		○			60.6	61.7	1.4	1.1
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				2(1) イ(4)	○		○			38.3	42.8	16.6	13.2
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる				2(1) イ(7)	○		○			30.4	32.1	29.8	24.7
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる				2(2) ア(4) イ(7)	○		○			34.6	37.0	17.4	14.2

## 【中学校 数学】調査問題の結果から

### ■顕著な課題がみられる設問

- ・ [6](3) 「はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する」問題の正答率は39.3%（全国比-1.6）である。「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明すること」に課題がみられる。→取組①
- ・ [9](2) 「二等辺三角形でない二つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く」問題の正答率は34.6%（全国比-2.4）である。「条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ること」に課題がみられる。→取組②

#### 課題の改善に向けた取組①

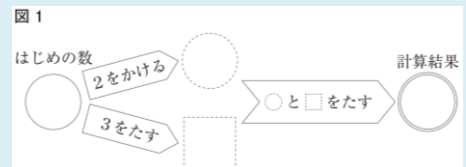
#### 数と式

[6](3)

結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導する。

#### ○学習指導に当たって（取組の例）

1. 図1において、「はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果は3の倍数になる。」が成り立つことを説明できたことから、かける数「2」は変えずに、たす数「3」を「6」や「4」に変えた場合にどのような数になるかを予想する。その予想が成り立つかどうかを、具体的な数や文字式を用いて考察する。
2. 図1のたす数「3」を「4」に変えると「計算結果は4の倍数になる」と予想した場合について、計算結果を表す「 $3n+4$ 」から、「 $4 \times (\text{整数})$ 」の形に変形できないことから、たす数を「4」に変えると、計算結果が4の倍数にならないことを捉えられるようにすることが大切である。さらに、4の倍数にするためには、「 $3n+4$ 」の「3」を「4」に変えればよいという見通しをもって、 $n \times 2$ と $n+4$ の「 $\times 2$ 」と「 $+4$ 」をそれぞれ幾つにすればよいかを、それまでの問題解決の過程や結果を振り返って考察し、表現（記述）する活動を設定する。



#### 課題の改善に向けた取組②

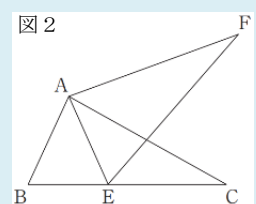
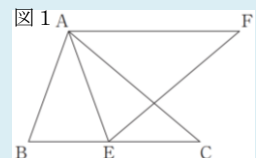
#### 図形

[9](2)

観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見いだすことや統合的・発展的に考察することができるように指導する。

#### ○学習指導に当たって（取組の例）

1. 厚紙で作った二つの合同な二等辺三角形を用いたり、図1をかいたりするなどの具体的な操作を通して、二つの直線(BC, AF)の関係を予想する場面を設定する。
2. 予想した事柄が成り立つことを証明することや、条件を変えた場合（図2）に結論が成り立たなくなる理由を、証明を振り返り、条件を変えた場合にも変わらず成り立つ部分と成り立たなくなる部分を図と対応させながら読み取ることができるようにすることが大切である。
3. さらに、二等辺三角形ではない合同な二つの三角形で平行線をひくための操作の仕方を検討したりするなど、統合的・発展的に考察する活動を設定する。



・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

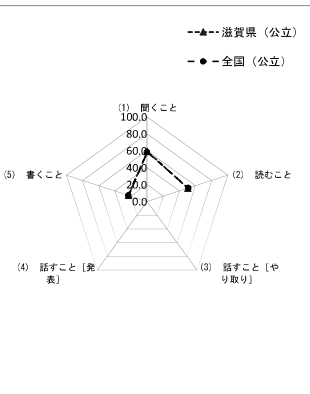
集計結果

対象学校数	滋賀県(公立)	全国(公立)	対象生徒数	滋賀県(公立)	全国(公立)
	102	9,335		11,914	893,528

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			滋賀県(公立)	全国(公立)	
全体			17	46	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	59.1	58.4	
	(2) 読むこと	6	50.5	51.2	
	(3) 話すこと [やり取り]	0			
	(4) 話すこと [発表]	0			
	(5) 書くこと	5	23.3	23.4	
評価の観点	知識・技能	9	52.1	51.5	
	思考・判断・表現	8	38.1	38.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	54.8	54.8	
	短答式	3	30.6	30.1	
	記述式	2	12.3	13.5	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと [やり取り]	(4) 話すこと [発表]	(5) 書くこと					滋賀県(公立)	全国(公立)	滋賀県(公立)	全国(公立)
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○				82.4	79.0	0.3	0.1
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○				65.6	64.4	0.3	0.2
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○				51.1	49.8	0.3	0.2
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○				59.6	61.1	0.3	0.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○				38.8	41.2	0.3	0.2
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○				56.9	54.8	0.5	0.4
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○				55.8	56.0	0.4	0.3
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	○					○				64.9	64.5	0.4	0.3
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○				34.4	35.9	0.3	0.3
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○				57.3	59.8	0.4	0.3
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	イ					○				33.8	34.7	0.7	0.7
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○				57.0	56.1	0.8	0.8
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる				ウ		○				17.4	19.5	34.1	29.3
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				40.4	40.4	7.9	6.6
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				21.6	20.9	12.2	10.9
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				29.9	29.0	27.9	24.5
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる				イ		○				7.2	7.4	26.5	21.4

## 【中学校 英語】調査問題の結果から

### ■顕著な課題がみられた設問

- ・ **8** (2) 「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」問題の正答率は17.4% (全国比-2.1) であり、無解答率は34.1% (全国比+4.8) である。「読んだことの要点を捉え、自分が考えたことをその理由を交えて正確に書くこと」に課題が見られる。→**取組①**
- ・ **10** 「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」問題の正答率は7.2% (全国比-0.2) であり、無解答率は26.5% (全国比+5.1) である。「事実や自分の考えなどを整理し、全体として一貫性のある文章を正確に書く」ことに課題が見られる。→**取組②**

### 課題の改善に向けた取組①

**8** (2)

読んだことを基に自分の考えとその理由を書くことができるようにする。

○学習指導に当たって (取組の例)

**書く力を高めるために** 目的：英語を書くことに慣れる

- ・ 授業者が与えたトピックについて、生徒は自分の考えを3分程度で書く。  
(例：”What is your favorite place at our school? Why? Tell Tom sensei.”)

<中間指導の充実>

- ・ 生徒が書いた内容について、よくある誤り等をICT機器等を使い共有する。授業者は修正すべき点と正しい表現を複数回フィードバックする。

(例：”(誤りの表現を取り上げて) I favorite the gym. Is this OK? Talk in pairs.”)

**自分の考えを表現する力を高めるために** 目的：自分の考えを正確に書けるようにする

- ・ 本文内容に関する授業者からの問いかけについて、生徒は自分の考えを決められた時間内で書く。(例：”Do you think that curry and rice is a Japanese food? Write your answer with a reason.” 「New Horizon 2 Unit 2」)

ポイント

- ・ 正確なアウトプットをするためには、インプット⇒インテイクを通して、正しい英語表現を定着させることが大切である。デジタル教科書等を活用した本文のリスニング活動や音読活動を繰り返し行い、正しい表現を身に付けることができるようにする。

### 課題の改善に向けた取組②

**10**

日常的な話題について、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある英文を書くことができるようにする。

○学習指導に当たって (取組の例)

**まとまりのある英文を書くために** 目的：考えを整理して書く

- ・ 既習の言語材料を繰り返し使えるよう、同じ話題について複数回書く取組をする。
- ・ 授業者は、内容を広げるため、話題について「Who, What, When, Where, Why, How」を含めて書くこと、その順序を意識することを指導する。(例：思考ツールの活用)
- ・ 話題について、事実や情報と自分の思いや考えを整理し、文章構成(例：主題-根拠や具体-主題の言い換えや要約)を考えながら書く。

ポイント

- ・ 生徒が書きたくなる話題および目的や場面、状況等を設定する。
- ・ 英語で表現することに慣れるため、日頃から継続的に書く活動に取り組み、活用できる語彙や表現、文法事項を増やすことができるよう指導をする。



# 分析資料の活用方法【S-P表（学校/学級別解答状況整理表）について】

## S-P表の概要

S-P（エス・ピー）表とは、全国学力・学習状況調査の結果を、学校や学級単位で、縦と横がそれぞれ児童生徒（S：Student）と設問（P：Problem）の正答数の多い順に並べ替えた表の中に、**S曲線（青）**と**P曲線（赤）**を書き入れたものです。これを活用することにより、平均正答率だけでは把握できない、学校や学級全体の課題の傾向や、個々の児童生徒が理解していない可能性が高い設問を見つけ出すことができます。

## S-P表の見方（次ページ「学校/学級別解答状況整理表（S-P表）の見方」参照）

- 表のセルには各設問の解答類型が記入され、誤答の場合には色付きセルで示されています。
- 色付きセル（誤答）は、**S曲線（青）**より左側か右側かによって、次のように色分けされています。  
**S曲線（青）より左側の誤答は、黄色セル** **S曲線（青）より右側の誤答は橙色セル**
- **P曲線（赤）**は、当該学校/学級の正答数を**赤実線**で、全国正答率を**赤点線**で表示しています。

## 子どもたち一人ひとりの確かな学力を育むための具体的な活用方法

### 【分析の視点①】 P曲線（赤）に着目

**赤実線（当該学校/学級）**が、**赤点線（全国）**より上にある設問を確認します。

→ 当該学校/学級の正答率が、全国の正答率よりも低い設問です。特に差の大きい設問は、学校・学年・学級全体として、「重点的に指導すべきと考えられる設問」です。

#### 誤答を分析し、課題を焦点化

「重点的に指導すべきと考えられる設問」を絞りこみ、誤答の内容からどこでつまづいているかに注目し分析することが重要です。実際に全教職員で解いてみることも有効です。

県全体として、全国平均と差が大きい設問については、本冊子でも取り上げていますので、参考にしてください。調査問題の解説資料・報告書も確認します。

### 【分析の視点②】 セルの色に着目

#### 橙色セル【S曲線（青）より右側の誤答】

→ 当該児童生徒が理解していない可能性が高い設問  
 = 「**重点的に指導すべきと考えられる設問**」  
 （一人ひとりの児童生徒に対し、見直し・復習などの指導を行うことが有効と考えられる設問）

#### 長期的な視点で、授業と関連付けた取組を！

橙色セルが多い設問は、学校・学年・学級全体でもう一度指導が必要があると考えられます。  
 「この設問を解くためには、どのような力が必要か」「その力を付けるためには、どのような指導が適切か」等を考え、「重点的に指導すべき点」を明らかにします。それを基に、全教職員が各自の授業実践で取り組むことを出し合いながら、協議をします。

#### 黄色セル【S曲線（青）より左側の誤答】

→ 当該児童生徒にとって比較的設問が容易だったと考えられる設問  
 （不注意による誤答や比較的克服が容易なものと想定される設問）

#### 間違った設問にすぐに再チャレンジ！

誤答について、児童生徒が個々に見直し、もう一度同じ問題に取り組みます。調査問題の解説資料から過去の調査の関連する問題に取り組むことも有効です。すぐに取り組むことで、自分の誤答の原因を振り返ることができます。

全体的に黄色セルの多い設問は、誤答の原因を分析し、改善策を検討が必要であると考えられます。

問題番号	1	6	8イ	8ウ	4	3	8ア	2	8エ	7	8オ
国語	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
算数	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
理科	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
社会	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
総合	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
英語	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
音楽	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
体育	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
道徳	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
外国語	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
総合	A	D	D	D	C	C	D	B	D	D	D
全国（10校）正答率	96.9	96.6	92.2	92.2	74.2	73.6	73.6	73.3	64.9	56.1	69.7
正答人数の割合	92.0	92.0	76.0	84.9	72.0	66.0	66.0	64.0	64.0	65.0	62.0
正答人数	23	23	19	21	18	22	18	22	19	19	22
学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
校	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
個人コード	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
付録	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
解答類型（「0」は無解答を表す。）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
12991211	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991212	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991213	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991214	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991215	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991216	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991217	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991218	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991219	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991220	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991221	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991222	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991223	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991224	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991225	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991226	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991227	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991228	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991229	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991230	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991231	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991232	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991233	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991234	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991235	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991236	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991237	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991238	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991239	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991240	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991241	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991242	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991243	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991244	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991245	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991246	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3
12991247	1	1	1	2	2	1	2	2	3	4	3

黄色セル

橙色セル

# 学校／学級別解答状況整理表(S-P表)の見方について

左から右へ、全国正答率の高い順に問題番号を記載

問題番号		2 (1)	3 (2)	2 (3)	3 (1)	1 (1)	4 (1)	1 (2)	4 (3)	4 (2)	2 (2)	1 (3)	5 (1)	3 (3)	5 (2)	
国語		A	じ	A	C	D	B	D	5	B	A	じ	B	C	A	
問題の概要		はじめの数が10のときの計算結果を求める	グラフから、列車のすれ違いが起る地点のA駅からの道のりを求める	計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の答えになるかを求める	列車の運行の様子から、速さで表されていることと前提条件を導く	全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒の割合を求める	与えられたことと、箱たにわかることを導く	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる進率を求める	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形CEFDがどのような形になるかを説明する	平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取ったとき、四角形EBDFは平行四辺形となることの証明を完成する	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつも4の倍数になることを証明する	全校よりも1年生の回答用紙による同じ引きの数が引きの数が異なる理由を説明する	8社の団体料金を調べる	A駅からの道のり	通常料金を	
全国(公立)正答率		59.0	78.7	37.2	68.2	54.3	54.0	41.8	41.0	40.5	35.6	34.8	14.7	12.0	8.2	
正答人数の割合		50.0	88.0	53.0	52.0	34.0	50.0	50.0	21.0	32.0	30.0	55.0	28.0	15.0	4.0	
正答人数		20	17	14	13	10	14	14	5	8	9	9	7	3	1	合計

**赤色**

**P曲線：**  
問題ごとに、上から数えて当該学校／学級の正答人数の数にあたる所を結んだ線  
例) 該当設問の正答人数が「9名」なので、上から9人目のところに横線が引かれる

**S曲線(青)より左側の誤答(黄色セル)**  
→当該児童生徒にとって比較的解答が容易だったと考えられる設問(不注意による誤答や比較的克服が容易なものと想定される設問)

**S曲線(青)より右側の誤答(橙色セル)**  
→当該児童生徒が理解していない可能性が高い設問(一人ひとりの児童生徒に対し、見直し・復習などの指導を行うことが有効と考えられる設問)

上から下へ、正答数の多い順に児童生徒を記載

**青色**

**S曲線：**  
児童生徒ごとに、左から数えて当該児童生徒の正答数の数にあたる所を結んだ線  
例) 当該児童生徒の正答数が「4問」なので、左から4問目のところに縦線が引かれる

全国正答率  
※小数点第1位を四捨五入して表示

※数字は解答類型(“0”は無解答)  
※色付きセルは誤答(無解答含む)  
※線が重なった場合は、以下の順で優先して表示される  
縦線：青線 > 赤線 > 赤点線  
横線：赤線 > 赤点線 > 青線

当該教科の全国正答率50%以上問題のうち、正答数が2分の1以下だった児童生徒の人数及びその割合(%)

高正答率分析対象	
人数	割合
23	18.1
<	5.1 >
(	5.7)

<> 内は都道府県平均との差  
( ) 内は全国(公立)平均との差



# 分析資料の活用方法（【学力層（四分位）分析グラフ】について）

## 「学力層（四分位）分析グラフ」の概要

児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国の四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。

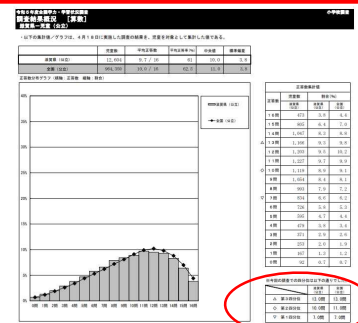
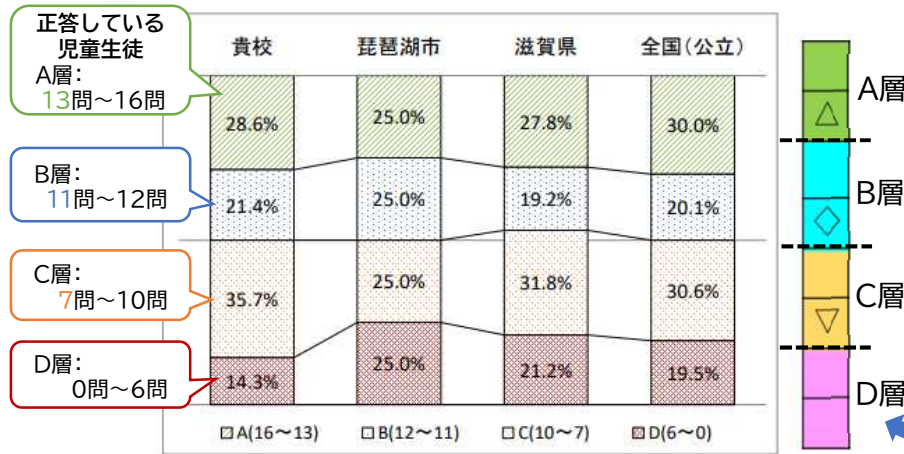
これを活用することにより、集団の現状を客観的に捉え、習熟にあった授業のねらいが焦点化され、手立てを具体化することができます。また、D層（学力低位層）に手だてを講じるだけでよいのかどうか等、習熟度別少人数指導や各学力層の実態に応じた教材・教具の一層の充実を図ることが可能になります。

## 「学力層（四分位）分析グラフ」等の見方

### 文部科学省からの提供資料 (例:小学校算数)

例：小学校算数

各集団のグラフ  
全国・県・市町・学校ごとの各層の  
児童生徒数の割合を示しています。



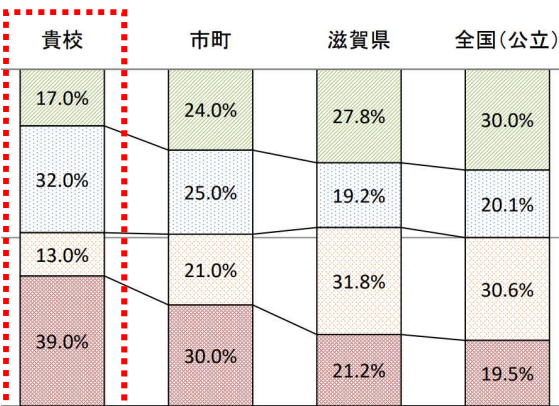
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	滋賀県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	11.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問

全国の四分位数に基づいて  
児童生徒を4つの層に分ける。

## 子どもたち一人ひとりの確かな学力を育むための具体的な活用方法

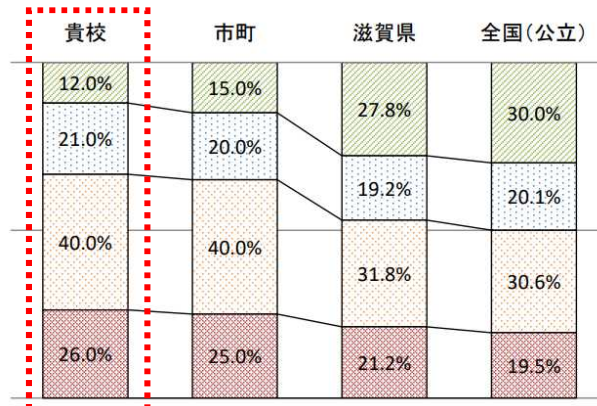
### 【例1】B層とD層の割合が大きい場合



### 習熟度別指導の工夫

算数・数学の学習で、習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成し、D層の子どもがC層に、B層の子どもがA層にステップアップできるよう、学習集団に適した指導を行います。また、習熟の程度に合わせた家庭学習の工夫も併せて行います。

### 【例2】C層の割合が大きい場合



### 「まとめ・振り返り」や適用問題の徹底

C層の子どもに焦点を当てた指導を行うことで、C層の子どもがB層にステップアップできるよう支援します。例えば、毎時間の「まとめ・振り返り」を徹底したり、算数・数学の学習で適用問題を必ず行ったりすることで、学習内容の定着を図ることが考えられます。

# 分析資料の活用方法【学力層分析グラフの作成について①（市町教育委員会用）】

1. 使用するファイルを校種ごとに開きます。

- ・小学校の場合：【小学校用】R5 四分位グラフ作成ファイル【全国・県・市町・貴校との比較】
- ・中学校の場合：【中学校用】R5 四分位グラフ作成ファイル【全国・県・市町・貴校との比較】

2. 市町名を【校種名】入力用シートの I 1 のセル（黄色）に入力する。

3. 文部科学省より、市町教育委員会に提供された『令和5年度全国学力・学習状況調査 調査結果概況〔各教科〕 正答数集計値』より、全国の四分位の正答数に基づいた四分位 ABCD の各層の割合を計算する。

**（例）中学校 国語**

正答数	生徒数	割合 (%)		
		貴校教育委員会	滋賀県(公立)	全国(公立)
15問	50	5.0	6.7	7.3
14問	87	8.7	11.0	12.3
13問	138	13.8	11.9	13.8
12問	138	13.8	11.8	12.9
11問	109	10.9	11.0	11.3
10問	93	9.3	9.1	9.3
9問	70	7.0	8.0	7.5
8問	66	6.6	6.5	6.1
7問	56	5.6	5.8	5.0
6問	55	5.5	5.1	4.1
5問	39	3.9	3.8	3.3
4問	30	3.0	3.2	2.6
3問	25	2.5	2.7	2.0
2問	22	2.2	1.7	1.4
1問	16	1.6	1.2	0.8
0問	5	0.5	0.4	0.3

この値を、それぞれ、  
 国語 I2~I5  
 算数・数学 P2~P5  
 英語 W2~W5  
 のセルに入力する。

※四分位 ABCD 各層のそれぞれの正答数の範囲は、全国の数と同じにする。

全国	四分位 A	四分位 B	四分位 C	四分位 D	正答数の範囲〔中学校〕
国語	A (15問~13問)	B (12問~11問)	C (10問~8問)	D (7問~0問)	
数学	A (15問~11問)	B (10問~8問)	C (7問~4問)	D (3問~0問)	
英語	A (17問~11問)	B (10問~7問)	C (6問~4問)	D (3問~0問)	

全国 四分位 A B C D 正答数の範囲〔小学校〕

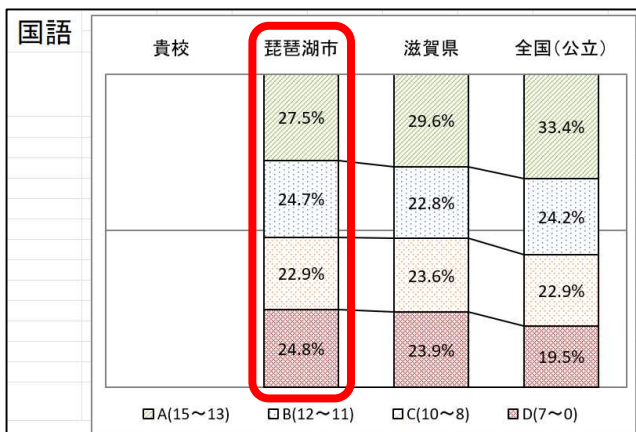
**国語** A (14問～12問) B (11問～10問) C (9問～8問) D (7問～0問)

**算数** A (16問～13問) B (12問～11問) C (10問～7問) D (6問～0問)

4. ABCD各層の割合を【中】入力用シートの黄色のセル（国語：I2～I5, 算数・数学：P2～P5, 英語：W2～W5）に3教科分をそれぞれ入力する。

	G	H	I	J	K	L
1	国語	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数
2	A(15～13)		27.5%	29.6%	33.4%	3
3	B(12～11)			22.8%	24.2%	3
4	C(10～8)			23.6%	22.9%	5
5	D(7～0)			23.9%	19.5%	3

5. 【中】印刷用シートに、市町のデータがグラフに反映されているか確認する。



※文部科学省から提供された数値の関係上、各層の割合の合計が100%にならない場合があります。

6. 上記5までのデータを反映させた四分位グラフ作成ファイルを、各学校へ送付する。



# 分析資料の活用方法【学力層分析グラフの作成について②（学校用）】

1. 「入力用シート」の A 7 のセルに、学校名を入力する。⇒ア
2. 文部科学省より提供された国語、算数・数学、英語の正答数のデータを「入力用シート」の緑色のセル（B 7 以降、C 7 以降、D 7 以降）に受験者全員分入力する。⇒イ

小学校  
 「[13桁の数字]\_06 解答・回答状況（児童）[2桁の数字].xlsx」  
 (学校番号) (学級番号)

中学校  
 「[13桁の数字]\_06 解答・回答状況（生徒）[2桁の数字].xlsx」  
 (学校番号) (学級番号)

※文部科学省から提供された正答数のデータを取めたファイルは学級（組）ごとに分かれていますので、「入力用シート」には、全学級分を順につなげて入力してください。

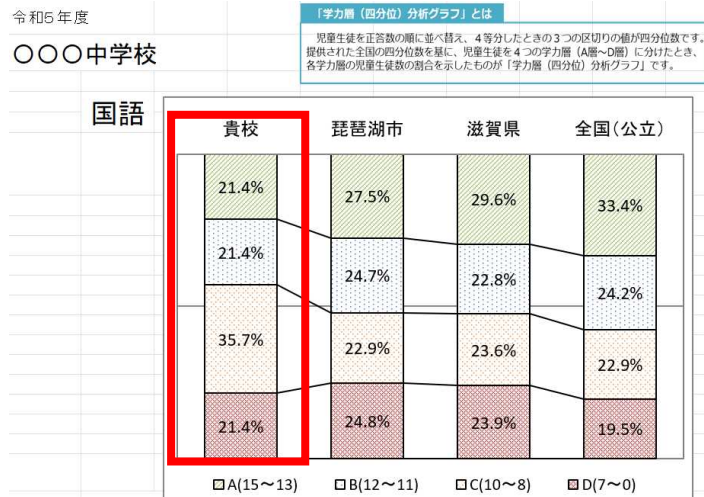
	A	B	C	D	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
1						国語	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数	数学	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数	英語	貴校	琵琶湖市	
2	学校名	国語	数学	英語		A(15~13)	21.4%	27.5%	29.6%	33.4%	3	A(15~11)	14.3%	25.0%	26.6%	27.4%	2	A(17~11)	21.4%		
3						B(12~11)	21.4%	24.7%	22.8%	24.2%	3	B(10~8)	28.6%	25.0%	22.4%	24.0%	4	B(10~7)	35.7%		
4						C(10~8)	35.7%	22.9%	23.6%	22.9%	5	C(7~4)	42.9%	25.0%	31.5%	31.1%	6	C(6~4)	28.6%		
5						D(7~0)	21.4%	24.8%	23.9%	19.5%	3	D(3~0)	14.3%	25.0%	19.4%	17.5%	2	D(3~0)	14.3%		
6						合計人数					14	合計人数					14				
7	〇〇〇中学校	11	3	9																	
8		8	4	5																	
9		11	4	3																	
10		8	6	9																	
11		12	6	8																	
12		5	3	11																	
13		10	11	11																	
14		14	11	9																	
15		14	8	13																	
16		13	9	10																	
17		7	10	6																	
18		6	9	6																	
19		9	7	2																	
20		8	6	6																	
21																					
22																					
23																					
24																					
25																					

ア  
学校名

イ  
正答数

貴市町名および、貴市町教育委員会に提供された調査結果概況（〇〇市町一生徒（公立））＜正答数＞のデータをもとに値を手入力してください。（3教科それぞれ）

3. 「印刷用シート」のグラフに、学校のデータが反映されていることを確認する。



令和5年度

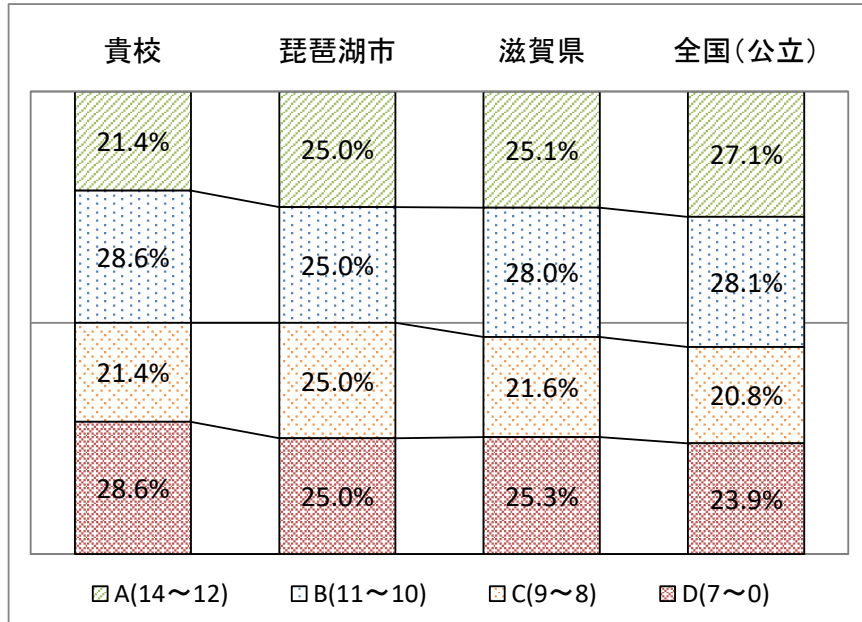
〇〇小学校

完成イメージ

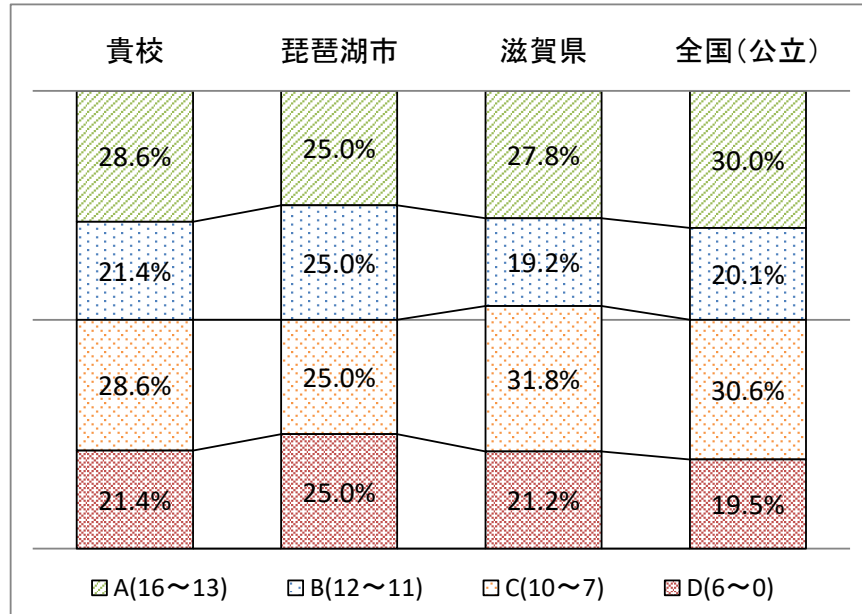
国語

「学力層（四分位）分析グラフ」とは

児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国の四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。



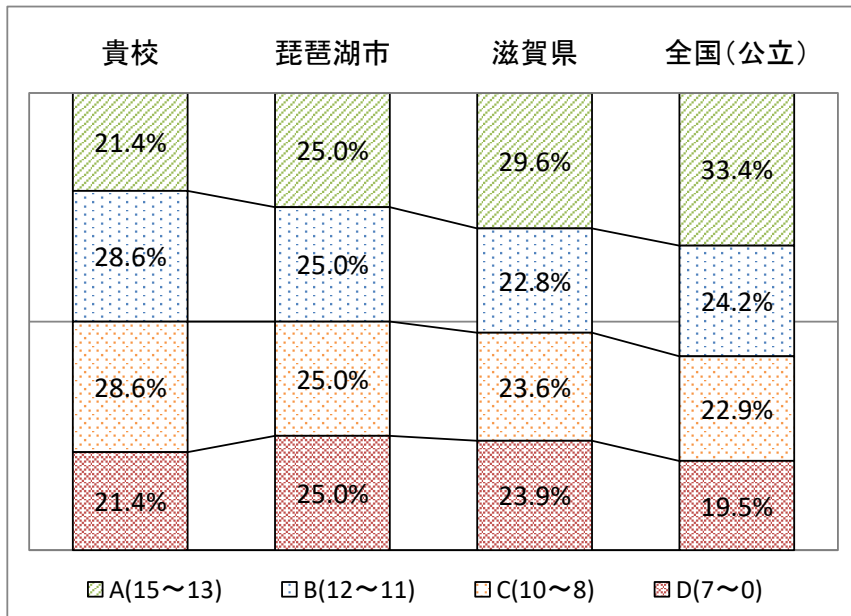
算数



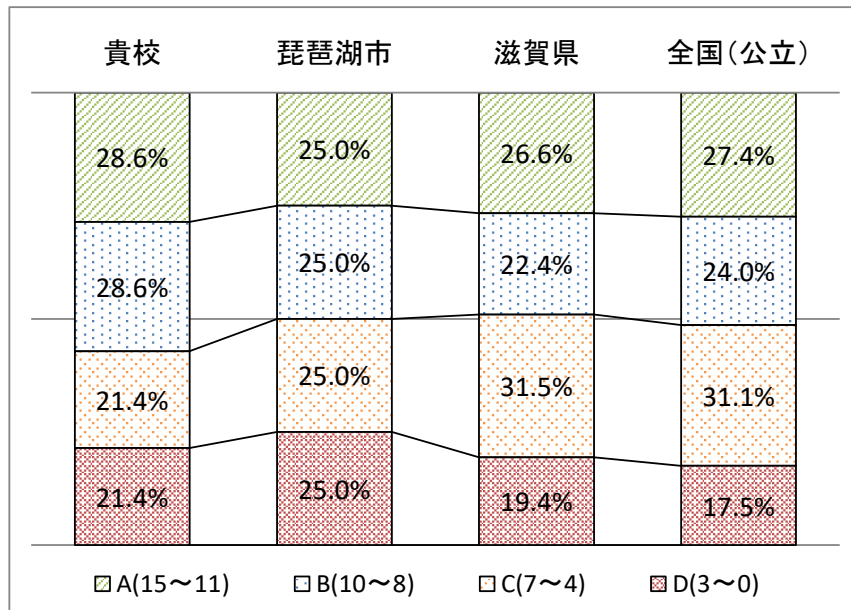
国語

「学力層（四分位）分析グラフ」とは

児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国の四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。



数学



英語

